

報道各位

稚内～利尻・礼文島航路、江差・瀬棚～奥尻島航路の運賃改定の申請について

ハートランドフェリー株式会社（本社：札幌市中央区 代表取締役社長：蔦井 孝典）は、平成 30 年 10 月 26 日、北海道運輸局長に対し、旅客・自動車航送運賃など平均 14.2%の運賃改定申請を行いました（現行届出運賃（バンカーサーチャージ加算額）との比較）。

弊社一般旅客定期航路事業は、昭和 60 年に平均 12.8%の運賃改定を実施、また、消費税導入後の税率改正に伴う増税分転嫁の運賃改定を実施しております。消費税増税分を除けば 30 年以上にわたり現行運賃水準で、お客様にご利用いただいております。

現行運賃のもと今日までサービス向上と経営合理化等により、経費の削減並びに輸送収入の増収に努めて参りました。

しかしながら、離島町の人口減少や少子高齢化、団体旅行から個人旅行へと旅行形態の変化による利用者数の減少が続いてきたとともに、諸経費の負担増も相まって弊社一般旅客定期航路事業を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しております。

このような中ではありますが、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を受けて、訪日外国人の受け入れ 4,000 万人とする政府目標に応えるとともに、離島の観光振興のため、老朽化した船舶の更新（リプレース）を行うことといたしました。

船舶の老朽化は安全性の確保に懸念を生じさせ、多額の修繕費が必要になるとともに、燃料費の節約ができないという問題も抱えています。船舶のリプレースは、省エネ効果を高めるとともに、バリアフリー化、防振対策、横揺れ防止装置の設置、大型化により欠航率が低く、就航率を安定させ、集客面での信頼性が高まることとなります。

このことにより、離島民の生活安定、観光振興においても大きな効果があり、離島の潜在需要の喚起による航路全体の活性化に繋がるものであり、建造費の確保、減価償却等に対応するためには経営基盤の安定が重要となります。

1. 運賃改定の概要について

- ① 運賃改定予定日 平成 31 年 1 月 1 日
- ③ 申請運賃別紙

2. 利用者サービス向上について

弊社では、旅行スタイルの多様化に対応するため、安全・安心・快適な船内空間で船旅をお過ごしいただけるよう、ベビールーム、レディースルーム等を完備するとともに、横揺軽減装置を設置したバリアフリー化新造船「カランセ奥尻」を昨年、江差・瀬棚～奥尻島航路に就航させて

います。また 2020 年 2 月には、稚内～利尻・礼文島航路で運航している「フィルローズ宗谷」の代替新造船の就航を予定しており、更に順次リプレースし利用者サービスの向上に努めて参ります。

3. 2020 年 2 月就航の新造船について

現在、稚内～利尻島・礼文島航路に就航している「フィルローズ宗谷 (3,551 トン)」の代替船として、総トン数 4,250 t のフェリーを建造いたします。

新造船の要目

主 要 寸 法	全長：96.5 m、幅：15.0 m
速 力	19.1 ノット
旅 客 定 員	495 名 (夏季 550 名)
車 輛 積 載	8 トントラック：21 台、乗用車のみ：53 台
操 船 上 の 設 備	スタビライザーフィン、サイドスラスタ
バリアフリー設備	適合客席、車いすスペース、適合トイレ、 点状ブロック、蝕知案内板
そ の 他 の 設 備	キッズルーム、ベビールーム、ペットルーム、 1 等席、2 等指定席、2 等自由席



新造船のイメージ



〈問い合わせ先〉

ハートランドフェリー株式会社

担当者：業務本部 浦田、菊地

TEL：011-233-8010 / FAX：011-233-2783